

令和8年2月19日

学校関係者評価委員の皆様

世田谷区立烏山小学校  
校長 廣石 雄司

### 学校関係者評価委員会の報告書を受けての令和8年度の改善策

学校関係者評価委員会より、令和7年度学校関係者報告を頂戴しました。アンケートの回収方法がWeb上に変更されましたが、学校関係者の皆様のご協力と回収方法の改善により、89.6%と大変高い回収率となりました。この貴重な回答を学校関係者評価委員の皆様によって分析され、提言をいただきました。学校として、今後の学校運営につきまして、学校関係者評価委員会の意見を基に改善を加えていくことについて、報告書の項目に沿って述べます。

#### 1 重点目標について

##### (1) 主体的に探究する子どもの育成

『学習のめあてについて、主体的に探究する』

#### 【学校関係者評価委員会からの提言】

○児童は、ほとんどの質問項目に高い肯定的回答をしている。このことから、先生方が楽しくよくわかる授業を目指して、児童の学習意欲を高め、主体的な学び、対話的な学び、深く考える学びが充実するよう授業研究を重ねられた成果が現れていることがうかがわれる。

●一方、保護者にはほとんどの質問項目に否定的回答が一定数見られる。保護者の否定的回答の質問項目には、授業の進め方や授業中の児童の活動に関するものが多く、保護者には深く把握・認識しづらい面があると受け止められる。授業や児童の受け止め方の実相について保護者に十分伝えていく情報提供の工夫が求められる。

○また、「授業で自分の考えを伝えることができている」では、児童の肯定的回答の割合が昨年度より大きく向上している。このことは、児童の努力とともに、先生方が児童の実態をより深く把握・理解され、指導方法を工夫された成果と捉えられる。

●ただし、「学習したことを生活の中で活用している」では、児童・保護者ともに否定的回答が一定数ある。そのため、授業内容と児童の生活とを具体的に関連付けたり、生活の中で活用することの意義や視点等を明言したりして、指導されることが肝要と受け止める。

#### 【改善点】

- ・今年度の研究主題を「主体的に探究する児童の育成」として研究を重ねてきました。児童・保護者双方から「学ぶことが楽しい」という肯定的回答が多く得られました。今後もこの探究的な学びのサイクルを授業の核として継続・発展させていきます。
- ・情報提供について、学校の情報発信を改善していきます。保護者会では、家庭での取組も考えてもらい、教師と保護者双方向の対話を増やし、授業公開時には、話合いや交流の場面を意識して見せることで、教育活動への理解を深めてもらうなど改善していきます。

- ・「学習したことを生活の中で活用している」という課題に対応するために、授業の終末などに、学んだ知識を実生活にどう生かせるかという価値付けや振り返りを意識して促す指導を強化していきます。

## (2) 多様性を認め合える子どもの育成

『自分のよさや可能性を信じ、互いに違いを認め合い、よりよい学級をつくろうとする。』

### 【学校関係者評価委員会からの提言】

○児童の自己肯定感や友達を認めあう（尊重する）意識は高く、保護者の受け止めも同じ傾向であることから、良好な学級集団が形裂衷きれていると捉えられる。先生方の、人間尊重を基盤とした学級運営が、人権感覚・協調性・所属意識・連帯意識等に良い作用をしてこの結果がもたらされていることは喜ばしいことである。

●ただし、10%程度の児童が否定的回答をしている点をなおざりにせず、まだ見えていない「多様性」が埋もれてしまわぬように、配慮を続けてほしい。

### 【改善点】

- ・子どもの多面的・多角的な理解を図るために、特に5，6年生では、教科担任制を実施していきます。また、中学年でも教科担任制を取り入れていく努力を行い、複数の教師が指導に当たることで、子どもの情報共有を促進し、一人一人の子どもを学年で育てていきます。

## (3) 心と体の健康な子どもの育成

『自分の心と体の健康を意識し、すすんで体を動かそうとする。』

### 【学校関係者評価委員会からの提言】

○体を動かす楽しさは児童に広く浸透し、運動の習慣づくりの取り組みは成果を上げていると捉えられる。学校は外遊びの推奨・縄跳び週間・持久走など、体を動かすことを実践する機会を多く提供し、その取り組みによって結果が出ている証左である。

●「わが子は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」設問の保護者回答で否定的回答が20%程度と高めに出ているのは、学校での活動と自宅での活動にギャップがあるからかもしれない。学校生活に多く取り入れられていることが理解浸透するよう、引き続き様々な媒体をつうじて情報発信に努めていただきたい。

●「うまくいかないことがあっても課題に取り組もうとしている」設問は、児童より保護者が10%程度高く否定的回答をしている。基準の置き方の違いと推察し、ただちに問題があるとは思えないが、児童や保護者とコミュニケーションにおいては、「ギャップが存在する」事実を押さえながら、目線が合うように努めていくことをお願いしたい。

### 【改善点】

- ・運動会や持久走大会など体を動かすことを実践する機会を多く提供しています。その他の行事についても、体力向上にとどまらず、目標に向かって仲間と協働する体験を通して、子どもは大きく成長し、飛躍していきます。そのことを大切にして、学校行事を大切にしていきます。

- ・情報発信につきましては、引き続き、学校ホームページや学校だより、すぐーるでの配信など、スマートフォンでも見やすい紙面にするなど工夫をしていきます。また、保護者が学校の情報の提供についての充足度や、学校の教育活動への信任を測る設問などを検討していきます。
- ・児童と保護者の視点のギャップを解消していくために、保護者会や個人面談などで、子どもの粘り強く取り組んでいる様子や、見方などを教師側が共通認識して伝えることを心がけていきます。

## 2 重点目標に向けた取組について

### (1) 教育のプロとして教員の資質や組織力の向上を図る

#### 【学校関係者評価委員会からの提言】

- 「子どもの意欲を大切にしている」設問は、教職員・児童・保護者共に肯定的回答が大半を占めており、強い信頼関係／相互理解が成り立っていると評価できる。
- 学校での過ごし方やルールを考える場面や理解浸透も同様の高い肯定的回答であり、児童の成長と、学校の安定的運営に寄与していることは想像に難くない。
- さらに、教員同士のコミュニケーションと新任教員へのフォローにより充実した教育活動をすすめていただきたい。

#### 【改善点】

- ・保護者会のあり方について、学校での様子が伝わるよう、教師と保護者双方向の対話を増やし、教育活動への理解を深めてもらえるよう改善していきます。その際、若手教員の育成も図っていきます。
- ・生活上の安全について、学校では具体例を示して指導する場面もあれば、どんな危険があるか、どうすれば安全に過ごせるか、なぜやってはいけないのかなど、子どもに考えさせる指導を行う場面もあります。実際に考えさせる指導をした例や子どもの反応、変容などについて、保護者会やホームページ、すぐーる等を活用して発信していくようにしていきます。

### (2) インクルーシブ教育を推進し、保護者・地域との連携を深める

#### 【学校関係者評価委員会からの提言】

- 情報発信や学校公開などを通じた開かれた学校づくりは一定の成果を上げており、保護者や地域からは概ね評価されている。今後、学校から発信している情報や提供している場へ保護者がどの程度アクセスしているか、可能であれば検証を試みてほしい。
- 一方で、「相談しやすさ」に不安を感じる保護者が一定数存在する。保護者会でのあり方や内容の工夫により、教職員と保護者間、また保護者同士の情報交換の場を提供できたら良いのではないか。また、課題をかかえる児童についても相談しやすい環境整備に引き続き取り組んでいただきたい。

#### 【改善点】

- ・保護者のホームページへのアクセスの分析につきましては、ホームページでは統計を確認することができませんので、検証を試みていきます。
- ・保護者会のあり方について、学校での様子が伝わるよう、教師と保護者双方向の対話を増やし、教育活動への理解を深めてもらえるよう改善していきます。その際、若手教員の育成も図っていきます。

す。また、その内容も例えば、保護者同士でテーマに沿って意見交換を行うなど保護者や担任間の交流を図ります。

- ・教科担任制によって、子どもたちが、どの担任にも相談しやすい環境が自ずと整っていくことが期待できます。5，6年生は、来年度より持続的に教科担任制を導入し、3，4年生についても可能な範囲で導入していきます。

### (3)「キャリア・未来デザイン教育」の実現

#### 【学校関係者評価委員会からの提言】

○「学校生活は、楽しい」の設問では、児童、保護者、教職員とも肯定的回答が高い。先生方の日頃の教育活動が充実していると考えられる。

●「なりたい自分や将来やりたいことについて考える学習をしている」の設問では27.8%の児童が否定的回答をしている。授業では、様々なきっかけづくりがなされているようだが、なりたい自分や将来のことについてももう少し具体的に、かつわかりやすい授業が求められる。

●保護者においても同様な設問に否定的回答をしている方が多い。保護者にむけて「キャリア、未来デザイン教育」のあり方を知らせることで否定的回答が減らせるのではないか。

○「学び舎」について、上祖師谷中学校の生徒が様々な場面でのボランティア活動をとおして小学校の活動に関わっており、また、幼稚園や保育園とも交流を深めるなど、複数世代と共に活動している。

●これらを学校だよりやホームページなどで知らせており周知されつつあるが、「情報が提供されている」の設問に対して25.6%が認識をしておらず、地域の認知度が上がらない。発信されている情報に、能動的にアクセスをしに行くことを求めることは難しく、ホームページや学校だよりで学び舎について引き続き情報提供することに加え、学校だより等の紙面にQRコードを配置するなどして、情報へのアクセスを容易にできるよう、工夫をしていただきたい。

#### 【改善点】

- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間、学校行事の機会を通して、生き方や将来のことについて考える授業や活動はあります。「今の教育活動がどう生き方（キャリア）に関わってくるのか。」ということ、日常的にもっと子どもに伝えていくことで改善を図っていきます。また、その様子を学校だよりやホームページ、保護者会等で保護者・地域への周知と理解を図っていきます。
- ・スマートフォンでも確認しやすいように、学校だよりに、ホームページへ移ることができるようにリンクを貼る等の工夫をしていきます。

### 3. 学校生活全般

#### 【学校関係者評価委員会からの提言】

○児童の「学校行事で、達成感を感じている」の肯定的回答は93.9%と高い。これは、先生方一人ひとりの児童に寄り添いながら指導を継続してこられた成果であり、児童が学校行事に対して高い満足感を得ている様子がうかがえる。

●一方、交通ルールの順守やあいさつの励行については、地域から否定的回答も出ている。交通ルールの順守は普遍的なものであり論を待たないが、あいさつの励行については近年の環境変化により難しい場面も発生していると思料する。環境変化も踏まえ、地域・家庭・学校でより一層連携した指導が継続されることを望む。

●また「本を読むことが好きである」の項目については、デジタル化が進む昨今、家庭と学校が連携し、児童が本に親しむ環境づくりの推進、読書習慣の定着が進むことを期待する。

#### 【改善点】

- ・校内では、あいさつ当番に取り組んだり、大人が積極的にあいさつすることを心掛けたりしていることで、本校の子どもたちは素直にあいさつすることができています。今後は、学校外でのあいさつ活動や、来校者へのあいさつの大切さについても伝えることで、地域へのあいさつの活発化を促していきます。
- ・朝読書や図書・国語の時間など、学校では子どもたちが本を楽しんで読んでいる様子がよく見られます。今後も学校で読書の楽しさを味わう時間を設定し、読書ができる環境を整え、興味がありそうな本と出合わせるような機会を増やすことで、読書が好きだと思えるようにしていきます。  
一方、たくさん本読む子どもは好きであるかどうかは不明な部分もあります。設問を「学校では、読書をする機会がたくさんある。」などへ変更することを検討していきます。